

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 R e P o r t 東北若葉教室		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者支援の専門性	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別サポートの強化</li> <li>情報提供の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が安心して相談できるよう、柔らかい雰囲気でお話ができる環境づくりも意識します。</li> <li>保護者向けの情報をわかりやすく提供するために、パンフレットやニュースレター、SNSを活用して最新情報や子育てに役立つ知識を定期的に発信します。</li> </ul>
2	スタッフの専門性	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフ間のスキルシェア</li> <li>定期的な研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各スタッフが得意な分野について他のスタッフと共有するためのミーティングや勉強会を定期的に設け、お互いのスキルを活用し合う環境を作ります。</li> <li>スタッフの専門性を高めるために、定期的な研修を行います。外部講師を招いたり、他の事業所と連携して研修を実施することで、最新の知識やスキルを取り入れる機会を増やします。</li> </ul>
3	活動の多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニーズに応じた活動プログラムの開発</li> <li>活動の目的と意義の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からフィードバックを収集し、内容を分析して次の活動に活かします。また、活動の成果や改善点を定期的に見直すためのミーティングを実施し、活動の質を少しずつ高めていきます。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者支援のさらなる充実	スタッフ間での情報共有やフィードバックがもう少しスムーズになると、支援がさらに手厚くなる可能性がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポート体制の強化</li> <li>情報共有の仕組みづくり</li> <li>フィードバック文化の醸成</li> </ul>
2	スタッフの専門性の底上げ	経験年数や専門分野の違いから、スキルに少しばらつきが出ている可能性がある。また、研修やスキルを共有する機会を増やすことで、チーム全体がさらにレベルアップできる余地がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修や勉強会の充実</li> <li>OJTやペア指導の導入</li> <li>スキルシェアの機会提供</li> </ul>
3	活動の一貫性と効果の見える化	活動の効果をわかりやすく伝えられる仕組みを取り入れることで、より一貫性が出て安心感を持ってもらえる可能性がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動目的の明確化</li> <li>効果測定の工夫</li> <li>定期的な振り返りミーティング</li> </ul>